

ご挨拶

医療法人立川メディカルセンター
理事長 吉井 新平

医療法人立川メディカルセンター2023年度学術活動・業績集をお届けします。

2023年から2024年の現在に至るまで新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況の変化、働き方改革本格始動、医療・介護・福祉に関する報酬トリプル改定、コロナ後の患者・利用者さんの受療行動の変化、医療・福祉界の経営状況悪化など、試練が続いております。

加えて世界情勢の不安定化、国内外の政治体制の変化の変化も地域社会に影響を及ぼしており、まさに「不確実性の時代」と言えます。自然災害や新規感染症を想定した施策も今まで以上に求められるようになりました。

新型コロナウイルス感染症は地域医療や医療に関する学術活動に大きな影響をもたらしました。

学術活動においては学会、地方会、研究会等がオンライン化され、実際に会場に足を運んで直接議論する場が長期間にわたり途絶えました。実臨床に根差した学術活動の余裕も少なくなっていた感があります。コロナで先行きの見えない時期に医育機関に在籍され、現場での研修機会が少なかった方々には苦労も多かったことと存じます。

現在も新型コロナウイルス感染症は続いております。地域医療や学術活動についても新たな時代に入ったと認識しております。時代は常に変わります。当法人としてもその変化を恐れず、新たな時代を開拓していきたいと存じます。

これまでのご挨拶にたびたび「混とんとした世界情勢の中でどう行動すべきか、では地域社会をしっかりと守り抜くことが遠回りに見えても私たちが出来る最も大切なことではないか」と述べて来ました。

不確実性の時代と言われつつもその因子は有限、個々の重み、変化の速度や程度、因子間相互関係などを分析予測し、自らより良い選択を続けることは出来ると思います。

当地に立脚し医療・介護・医療人育成を担わせてもらっている当法人だからこそ出来ることを着実に粛々と進めていきたいと思っています。

新たな時代での学術活動は手探り状態であっても、いずれ時代に即した形になっていくはずです。新たな時代の中心となっていく若い世代の活躍を期待します。

2024年12月5日